

項目	観点	教科書名					
		新編 新しい社会 公民(2・東書)	中学社会 公民 ともに生きる(17・教出)	社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して(46・帝国)	中学社会 公民的分野(116・日文)	新しい公民教科書(225・自由社)	新しいみんなの公民(227・育鵬社)
1 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について	○平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成するために、どのような配慮がされているか。	・巻頭や巻末で持続可能な社会について取り上げられており、公民との関連が示され、学習内容と見方・考え方を働かせる視点を示したものが見開きのページに1つ提示されている。 ・「みんなでチャレンジ」のコーナーでは、対話的な学びを提案することで、社会的事象を多面的・多角的に考察する力を養うよう配慮されている。 ・中学生が社会参画している事例を大きく取り上げ、持続可能な社会の形成に必要な一人一人の社会参画について、理解できるようにしている。 ・章や節の問いを見出すために、テーマに合った思考ツールを提示している。 ・最後に、持続可能な社会について構想し、自分にできることをまとめるページを設け、社会参画に向けた主体的な態度を養えるようにしている。	・巻頭や巻末で持続可能な社会について取り上げられており、公民との関連が示され、学習内容とSDGsの関連項目が表記されている。 ・巻頭の「公民にアプローチ」のコーナーでは、情報の収集の仕方や情報の整理の仕方、発表について特集することで情報活用の技能を身に付ける配慮がされている。 ・各章で意識させたい見方・考え方が導入ページで紹介されており、活用させたい単元にマークが表記されている。 ・章の導入の問いで社会的事象を自分事として考える活動をしたり、章のまとめに学習の振り返りをする場面を設定したりすることで、多面的・多角的に考察する力を養うよう配慮されている。	・巻頭で持続可能な社会や社会参画について取り上げられており、公民との関連が示されている。 ・「技能をみがく」のコーナーでは、対話的な学習により、課題の解決策について、現代社会の見方・考え方を働かせて、自分の意見をまとめたり、他者と意見を交換したりすることで、学びを深めることができる。6つのテーマについて、賛否の意見を紹介し、多面的な考察を促すようにしている。 ・章の導入とまとめの場面で学習の全体像を外観できる資料を提示したり、課題によって様々な見方を働かせる教材を提示したりすることで、多面的・多角的に考察する力を養うよう配慮されている。 ・章や節の問いを見出すために、テーマに合った思考ツールを提示している。	・巻頭で持続可能な社会について取り上げられており、公民との関連が示されている。 ・巻頭・巻末では、他教科や他分野、高校の公民科「公共」との関連が示され、公民を学ぶ意義や視点を確認できる。 ・「明日に向かって」のコーナーでは、生徒が社会に参画するための手がかりが示されている。 ・「チャレンジ公民」のコーナーでは、章に関わる社会の課題を考察・構想することで、社会的事象を多面的・多角的に考察する力を養うように配慮されている。 ・「章の問いに答えよう」というコーナーで、思考ツールが紹介され、課題を多面的に考察する手段が示されている。	・「もっと知りたい」「アクティブに深めよう」というページで、社会的事象を多面的・多角的に考察する活動が盛り込まれている。 ・「やってみよう」というコーナーで、社会的事象を多面的にとらえ、比較する活動が設定されている。 ・「学習の発展」のコーナーでは、考察したことを表現して考えを深める活動を設定したことで、基礎的事項を押さえつつ、多面的・多角的に考察する力を養うよう配慮されている。	・巻頭・巻末資料として持続可能な開発目標と公民の学習内容はどうつながっているかを説明している。 ・「学習を深めよう」では、章の学習内容に関連した身近な地域の事例や、世界的・歴史的動向について、調査してまとめる学習を扱っている。 ・見方・考え方を深めるための発問があり、身近な出来事や自分の生活に影響があることが取り上げられていることで、考えを深められるようにしている。 ・まとめの場面で新たな考察ができるような探究の視点を示すことで、多面的・多角的に考察する力を養うよう配慮されている。
2 内容の程度及び取扱いについて	○主体的・対話的で深い学びを実現するためにどのような工夫が見られるか。	・単元の導入では、活動を通して生徒が主体的に学びに向かえるようにする単元を貫く探究課題を設定している。 ・まとめの場面で、自らの思考を整理するさまざまなツールを使って学習課題を整理したりする活動を設定することによって、主体的・対話的で深い学びが実現できるような工夫がされている。 ・課題設定場面では、生徒自身が課題をつかめるよう、対話の例が示してある。 ・導入・展開・まとめの学習段階に応じて個別最適な学びや協働的な学びを支えるための、紙とデジタルを選択できるようなコンテンツの工夫がされている。 ・基礎的・基本的な技能を身に付けられるよう、「スキル・アップ」のコーナーが設定されている。	・「学習のはじめ」では写真やまんが、「ウォーグアップ！公民」のコーナーの各問いを活用することで単元の見通しが立てられるよう工夫されている。 ・各章では「持続可能な社会に向けて」の時間が設けられており、章で学んだ内容を発展させ、実生活を踏まえ考察できるようになっている。これによって、主体的・対話的な深い学びを実現できるようになっている。 ・各単元のまとめでは単元の課題について表現する時間や、未来のためにできることを考える時間が設けられており、自分事として課題を追究する工夫がされている。 ・「公民の技」のコーナーでは、個人やグループの活動を通じて、技能や表現力を高められるよう工夫されている。	・「学習の前に」では、大きなイラストから学習内容に関連した事項を探し出す作業を通じて、生徒の興味・関心を引き出し、「主体的な学び」を促すよう配慮されている。 ・各章で問いが構造化され、単元のまとまりのなかで「主体的・対話的で深い学び」が実現できる構成になっている。 ・節の振り返りでは、図や表を用いて学習事項の整理と確認を行えるよう工夫されている。 ・「アクティブ公民」では、現代社会の諸問題を考察し、解決への取り組みを考えるパフォーマンス課題が設定されており、対話的な学習を通して、課題に粘り強く向き合い、さまざまな立場を踏まえ、合意形成を目指すための工夫がされている。	・章の導入で、「単元を貫く問い」を立て、学習課題を解決していくことで主体的・対話的で深い学びを実現することができるよう工夫されている。 ・各時間で「確認」「表現」があり、学習課題へのヒントとなっている。 ・章のはじめには、章の学習内と生徒の生活を結ぶ漫画があり、生徒が学習に取り組みやすくなるようになっている。 ・章のまとめでは、現実の課題に見方・考え方を生かせるよう、実社会で起こった出来事の題材が提示されている。 ・まとめの活動では思考ツールの提案やいくつかのステップにわけた活動の流れを提示することで、活動の流れが見えやすくなり工夫されている。 ・デジタルコンテンツとしてポートフォリオに学習の振り返りができるようになっている。	・章ごとに考えを深めるために、「アクティブに深めよう」のコーナーが設けられており、主体的・対話的で深い学びの実現のために、話し合い活動や考えを表現する活動ができるよう工夫されている。 ・考えや学びを深めるための手立てとして、「もっと知りたい」のページで発展的な資料を掲載したり、巻末の卒業レポートなどの考えをまとめて表現したりする活動を設定したりしている。 ・「課題の探求」のコーナーにおいて、ディベートの実践が提案されており、議論を進めて深い考えに基づく合意を形成していく力を身に付ける工夫がされている。	・各章の「これから」では、章の学習内容を生かした、課題に対して、互いの意見を出し合い、見方・考え方を広げ、学びを深めるような対話型の学習活動の設定されている。 ・「学習を深めよう」のページでは、実社会の課題を提示し、生徒がゲームを利用したり、HPを使い調べたりすることで、学びが深められるよう工夫がされている。 ・「TRY」のコーナーでは、より発展的な内容をグループで話し合ったり、調べたりして取り組む、対話的な活動が提案されている。 ・「やってみよう」のコーナーでは、本文学習に関連して、個人や班で取り組む課題が設定されており、 ・巻末の社会科のまとめでは、考えをまとめ、レポートやプレゼンテーションをするなど考えを表現する活動を設定している。
3 内容の配列・分量	○単元の構成や教材の配列にはどのような特色があるか。	・6章の単元で構成されている。 ・全体の分量は、96時間の配当で、予備時間は4時間設けられている。 ・配列は、各章の学習を「学習に興味をもたせる『導入部』→学習を進める『展開部』→学習をまとめる『終結部』」の形で構造化されている。 ・単元全体を貫く「探究課題」の解決を補助する問いが各節に設けられ、まとめの活動で思考ツールが使用できるようにするなどの特色が見られる。	・7章の単元で構成されている。経済の単元が2章からなっているのが特色である。 ・第5章の「安心して豊かに暮らせる社会」の単元の分量が多くなっており、これからの日本経済の課題を他教科やSDGsの視点で構成になっている。 ・分量は100時間の配当となっている。 ・各章の導入では生徒の生活体験に関連する資料や問いを基に課題を捉え、見通しを立てて、追究していく構成になっている。 ・章の最後には持続可能な社会の実現に向けて考察を促す活動を設けるなど特色が見られる。	・全5部、6章の単元で構成されている。 ・「現代社会」「政治」「経済」「国際」「課題探求学習」の大きな枠組みで章が構成されているのが特色である。 ・分量は、90時間の配当で、予備時間は10時間設けられている。 ・学習の章ごとの問いを振り返り、まとめにおいて社会参画を疑似体験する活動を設けるなどの特色が見られる。 ・学習内容が定着するよう1時間で、「導入→学習課題→本文→確認しよう・説明しよう」という展開で統一し、構造化させている。 ・「アクティブ公民」のコーナーでは、取り組みに対しての振り返りの視点が示されており、自分の学習を振り返ることができる。 ・平等権を自由権の後に設定している。	・全4編、8章の単元で構成されている。現代社会と経済の単元が、それぞれ2章からなっているのが特色である。 ・分量は、100時間の配当となっている。 ・各章の導入ページで単元を貫く問いを立て、問いを構造化することで、内容のまとまりでの授業がしやすくなっている。 ・各時間の「学習課題」の積み重ねで、「章・節の問い」を解決する構造になっており、考察したことをまとめたり、話し合ったりする時間を設けるなどの特色が見られる。	・7章から構成されている。第1章の個人と社会生活について内容が多くなっている。 ・国民生活と経済の単元において、経済のしくみや政府の経済活動を学習した上で、個人の経済活動を学習する配列になっている。 ・見開きでは72時間分の配当となっており、導入や発展学習の時間が取りやすくなっている。 ・学習では、各単元において「学習のまとめ」があり、重要語句を確認したり、問題に取り組んだりできる構成になっている。 ・学習の発展では、学習を発展するための課題に取り組むコーナーや資料を掲載するなどの特色が見られる。	・5章の単元で構成されている。 ・92時間で授業が完結する配当となっている。 ・章の導入では、「章の入口」として学習のきっかけとなるような話題を扱っている。 ・課題を「つかむ」「調べる」「まとめる・表現する」といった構造となっている。 ・「やってみよう」のページでは、本文ページと関連した内容を、発展的に学んだり、表現したりできるようにしている。
4 表記・体裁・資料	○用語や写真、動画・音声やアニメーション等のコンテンツなどの使用上の便宜等については、どのような工夫が見られるか。	・他教科や他分野との関連するページに印がついており、デジタルコンテンツで確認することができる。 ・巻末には、日本国憲法と憲法に関する用語の解説がセットで掲載されている。他の法令については、デジタルコンテンツで見ることができるようになっている。 ・用語解説については、「社会科用語マスター」をデジタルコンテンツで見ることができる。紙面上には解説の掲載がない分、全239ページと教科書が薄くなり軽量化している。 ・「社会科用語マスター」では、地理や歴史の学習に関連する用語の解説も見ることができる。 ・デジタルコンテンツの工夫では、見開きのページに二次元コードが掲載されており、思考ツールや動画、ワークシートなどが提示されており、導入、展開、まとめでの自主的な学びをサポートしている。	・他教科や他分野、SDGsとの関連がページ下に示されている。 ・巻末には、日本国憲法と憲法に関する用語の解説がセットで掲載されている。また、諸法令集も掲載されており、「まなびりんく」にアクセスすることで全文が見られる工夫がされている。 ・用語解説のページが4ページ分設けられている。 ・第二次世界大戦の歩みの年表が掲載されており、生徒の学習の振り返りを助ける工夫がされている。 ・デジタルコンテンツの工夫では、各章の導入に掲載されている二次元コードを読み取ると、「まなびリンク」にアクセスし、動画やクイズといった学習したことを確認したり、活用・表現するための支援がされている。 ・「まとめワーク」では学習問題に取り組むことができる。	・小学校、他教科、他分との関連がページ下に示されている。 ・巻末には、日本国憲法と憲法に関する用語の解説がセットで掲載されている。 ・諸法令集も掲載されており、「社会科 中学生の公民」にアクセスすることで全文が見られる工夫がされている。 ・第二次世界大戦の歩みの年表が掲載されており、生徒の学習の振り返りを助ける工夫がされている。 ・デジタルコンテンツの工夫では、各単元の導入や振り返り、「アクティブ公民」のコーナーにある、二次元コードを読み取ることで、「社会科 中学生の公民」にアクセスし、NHK for Schoolへのリンクや資料、ワークシート、白地図などを活用することができるようになっており、生徒の個別最適な学びを支援している。	・巻末には、日本国憲法と憲法に関する用語の解説がセットで掲載されている。 ・法令集が掲載されている。 ・用語解説のページが4ページ分設けられている。 ・現代の世界の様子の資料と日本の現代史年表が掲載されており、生徒の学習の振り返りを助ける工夫がされている。 ・デジタルコンテンツの工夫では、見開きに必ず二次元コードが設けられており、学習の導入へ向けた動画や、章や節ごとの予想と学習後の変容を振り返ることができるポートフォリオが提示されている。	・巻末には、日本国憲法と憲法に関する用語の解説がセットで掲載されている。 ・ページ中に、本文内容の捕捉のための用語の説明や発展内容を示す「ミニ解説」、理解を促すための「ここがポイント」のコーナーが設けられている。 ・現代の世界の様子の資料と日本の現代史年表が掲載されており、生徒の学習の振り返りを助ける工夫がされている。 ・デジタルコンテンツの工夫では、見開きに必ず二次元コードが設けられており、学習の導入へ向けた動画や、章や節ごとの予想と学習後の変容を振り返ることができるポートフォリオが提示されている。	・巻末には、日本国憲法と憲法に関する用語の解説がセットで掲載されている。 ・学習資料では、多数の法令が掲載されている。 ・用語解説のページが4ページ分設けられている。 ・戦後の日本と世界の主な出来事のページが設けられており、生徒の学習の振り返りを助ける工夫がされている。 ・デジタルコンテンツの工夫では、最初に掲載されている二次元コードを読み取ると、学習の捕捉や発展学習につなげるためのサイトにリンクすることができるようになっており、最新の情報を取得することができる。